

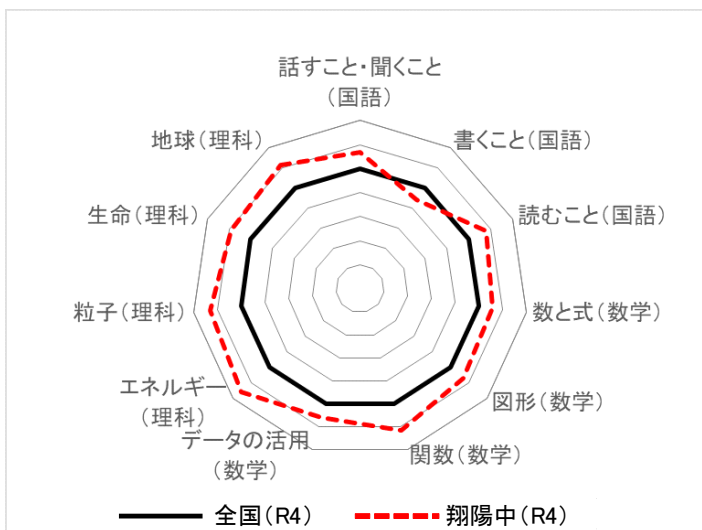
# 令和4年度 全国学力・学習状況調査について

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の検証・改善や、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、令和4年4月19日に3年生を対象として国語・数学・理科で実施されました。以下はその結果をまとめたものです。

## 1 本校の生徒の学力状況の概観

今年度の本校の全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科ともに、全国の平均正答率を上回る結果となりました。学習内容の基礎・基本を着実に定着させることについては、授業における問題練習や、家庭学習の推進など、日常の学習指導の取組について、一定の成果があったものと捉えています。一方で、事柄が成り立つ理由を説明したり、自分の考えを根拠に明確にして書くことなどについて課題がみられます。

今後は更に、個々の学習状況を的確に把握しつつ、「物事を多角的に捉え、学びを深めることができる生徒の育成」を目指し、「深い学び」を体感できる授業や、「生徒の発問から展開していく」授業となるよう改善に努め、一層の学力の向上に努めてまいります。



## 2 各科目の分析結果と課題及び改善の方策

### 【国語】

＜分析結果と課題＞ ○→成果 ▲→課題

- 平均正答率が全国を大きく上回った。
- 漢字の行書と書き方についての正答率が高い。
- 助動詞の働き、事象や行動、心情を表す語句など、言葉の特徴や使い方に関する事項への理解が高い。
- ▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がみられる。

### ＜改善の方策（国語）＞

- ・ テーマを決めてのミニ作文や、文章の内容を要約して書くなどの学習を取り入れ、自分の考えについて、根拠を明確にして表現する活動を充実させる。
- ・ ペアやグループによる学習を通して、考えを伝え合う、質問し合う中で、表現の内容や伝え方を助言し合うなど、お互いに学び合う活動を充実させる。

### 【数学】

＜分析結果と課題＞ ○→成果 ▲→課題

- 平均正答率が全国を大きく上回った。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確立についての正答率が高い。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えるなど、知識・技能を問う問題への正答率が高い。
- ▲判断の理由や、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

### ＜改善の方策（数学）＞

- ・ 既習事項を確認する復習プリントや小テスト、チャレンジテスト等で学習内容の定着状況を細かく把握し、既習事項の学び直しや基礎基本の確認を授業を通して継続的に行う。
- ・ 習熟度別授業の中で、個に応じた学習課題を提示したり、個別指導や教え合い学習を増やす。
- ・ 生徒による解き方の説明を授業に組み込むなど、答えを求めるまでの過程や考え方の根拠となる事柄を明らかにしながら理由を説明する活動を行う。

## 【理科】

<分析結果と課題> ○→成果 ▲→課題

- 平均正答率が全国を大きく上回った。
- 条件を制御した実験の計画についての正答率が高い。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことを問う問題への正答率が高い。
- ▲他者の考えについて多面的、総合的に検討して改善することや、現象を科学的に説明することに課題が見られた。

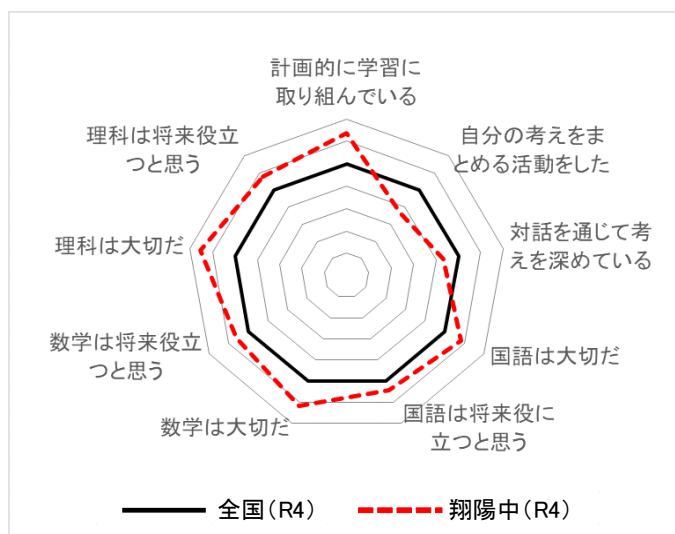
### <改善の方策（理科）>

- ・授業の中で、既習事項を確認する問題練習や小テスト、チャレンジテスト等で、基礎基本の定着を図る。
- ・授業を通して学んだことやわかったことを自分の言葉で書く活動などを組み込み、根拠をもって説明できる力を身につけることができるようにする。

## 3 生徒質問紙の分析結果と課題及び改善の方策

<分析結果と課題> ○→成果 ▲→課題

- 国語・数学・理科の勉強について、いずれの教科も「好き」「大切」「将来役に立つ」と感じている生徒の割合が全国より高い。
- 自分には良いところがあり、認められていると感じている生徒の割合が全国より高い。
- 計画を立てて学習している生徒、家庭学習時間が多い生徒の割合が全国より高い。
- ▲自分の考えをまとめて伝えたり、他者の意見を生かして課題解決をすることができると感じている生徒の割合が全国より低い。
- ▲「新聞をほぼ毎日読んでいる」「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒が、全国より低い。
- ▲「学校で、自分の考えをまとめ、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っている」と回答した生徒が、全国より低い。



### <改善の方策（生徒質問紙）>

- ・継続して家庭学習の取組を全校的に進め、習慣化を図ると共に、ラインズeライブラリ等を活用した家庭学習のサポートを家庭の理解と協力を得ながら進める。
- ・生徒会や学年協議会等の組織を機能させた生徒の自主的な活動やボランティア活動をはじめ、学校行事や学級内の係や当番活動を通して、自己有用感を高めることができるよう支援する。
- ・生徒の学習や生活の状況について、「寄り添う指導」を推進しながら、担任だけではなく学年で情報を共有するなどし、生徒の心の居場所づくりを組織的に構築していく。
- ・「学校」「家庭」「地域」との連携を深めるために、CS（学校運営協議会）や学校支援地域本部等と協力して、「生徒に身につけさせたい力」を明確化し、そのための望ましい活動について協議を進める。
- ・校内のICT委員会を中心として、職員のICT機器の活用スキルを向上させ、授業実践に生かす。